

蒲生校区まちづくりプラン

(蒲生校区振興計画)



鹿児島県始良市蒲生町

蒲生校区コミュニティ協議会

[目 次]

はじめに

I 蒲生校区の概要

- 1 蒲生校区の位置図
- 2 蒲生の名の由来
- 3 蒲生校区内の主要施設
- 4 史跡・観光・レクリエーション
- 5 伝統工芸
- 6 郷土芸能
- 7 蒲生校区コミュニティ協議会の組織体制

II 蒲生校区の現状と課題

- 1 蒲生校区の現状
- 2 蒲生校区の課題

III 蒲生校区がめざす将来像

IV 主な取り組みと実施時期・役割分担

V 計画の推進に向けて

鹿児島県始良市

蒲生校区コミュニティ協議会

はじめに

始良市蒲生町は、鹿児島県本土のほぼ中心にあり、鹿児島空港から約 21 キロメートル、鹿児島市中心市街地から約 24 キロメートルの距離にあつて始良市の西部に位置し、西は薩摩川内市、南は鹿児島市に隣接しています。

観光資源は、樹齢 1500 年ともいわれている日本一の大楠、県下でも数少ない薩摩古流の兵法に基づく石垣や生垣、武家門などを配した美しい町割りが残る自然豊かな歴史ある街です。

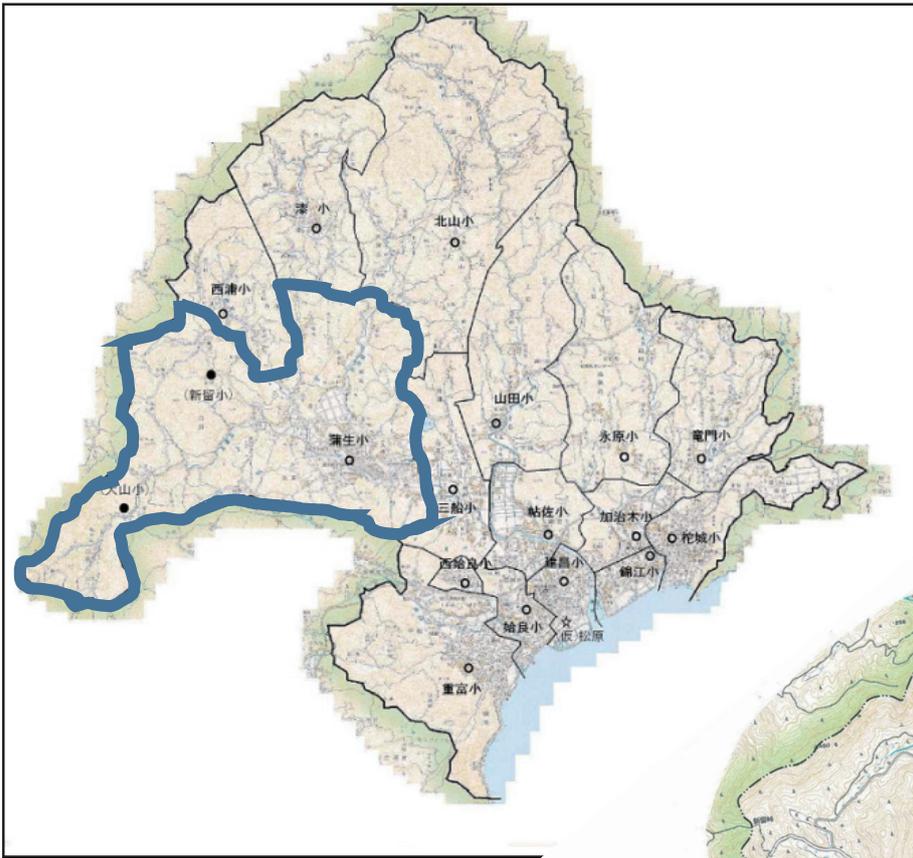
蒲生校区コミュニティ協議会は、地域住民の協力連携と、より住みよい地域づくりを目指して平成 27 年 12 月に発足いたしました。

その特徴は、昭和 41 年（1966 年）以降 50 年に渡り続けてきた地区公民館の組織及び活動をそのまま継続しながら、コミュニティ活動を行うことにあります。

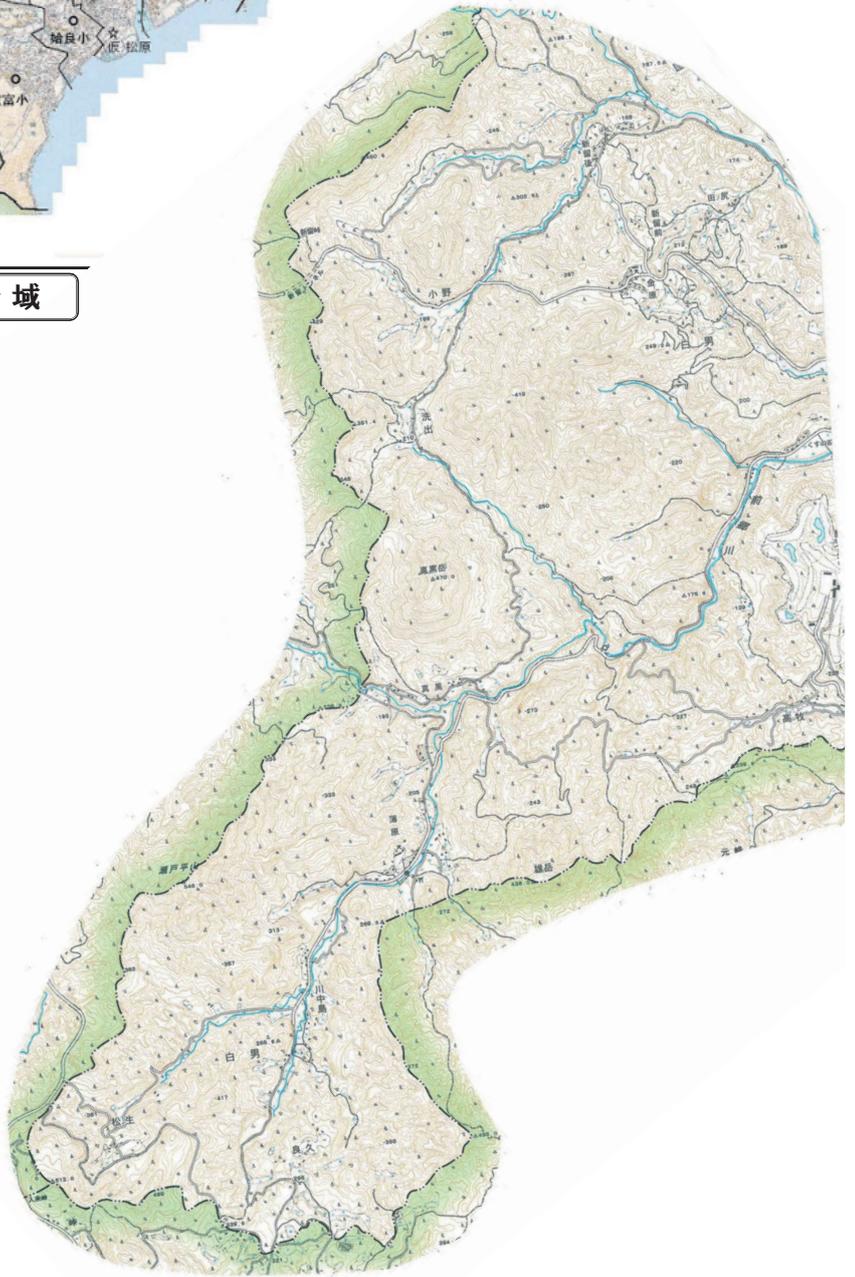
今後、ますます進むであろう少子高齢化による人口の減少、担い手不足、価値観の変化等新しい課題に対応しながら、校区内 13 地区公民館等や団体、行政との連携を深めながら、安心安全で住みよい町づくりを進めていきたいと思っています。

平成 30 年 3 月

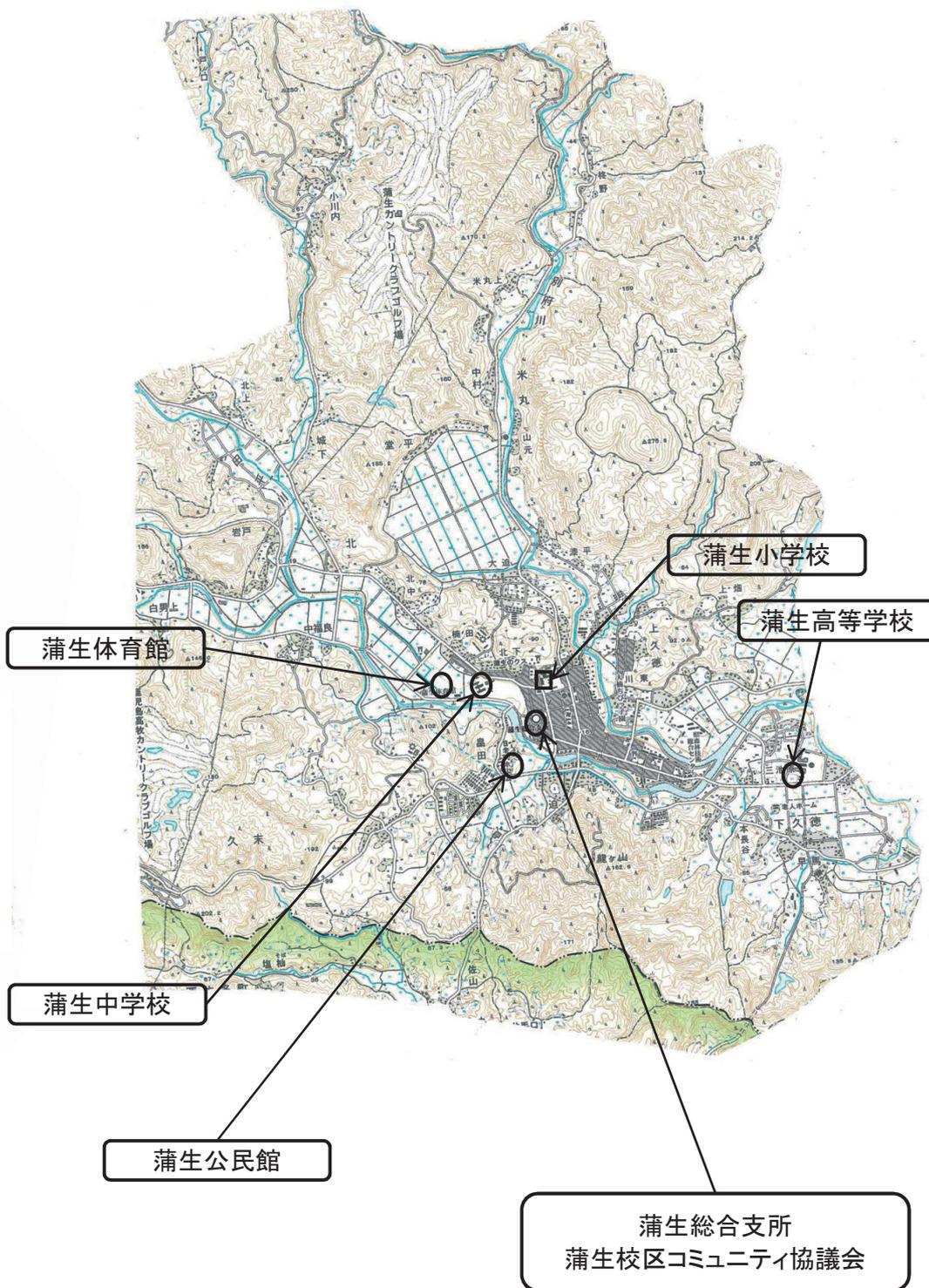
蒲生校区コミュニティ協議会
会 長 有 村 穆 尚



始良市全域



蒲生校区



I 蒲生校区の概要

1. 蒲生校区の位置図

蒲生校区コミュニティ協議会は、始良市の西部に位置する蒲生町の北西部（漆・西浦地区）を除く 13 地区の公民館等で構成されています。蒲生町の地形は、ほぼ三角形で南部において東西に広く北に進むにつれて狭くなっています。また、東南部の一部を除き三方山に囲まれ、東南に向きなだらかになっています。

河川は蒲生町西北部境に源を発し山間溪谷を経て、別府川及び前郷川となり市街地を挟むような形で東南へ流れています。

また、前郷川は、下久徳字岩迫において別府川と合流し鹿児島湾（錦江湾）に注いでいます。豊富な水は、稲作を中心とした農業を支える重要な水源となっています。

道路は、浦、蒲生線（県道 463 号線）川内、加治木線（県道 42 号線）

伊集院、蒲生、溝辺線（県道 40 号線）小山田、川田、蒲生線（県道 211 号線）

鹿児島、蒲生線（県道 25 号線）が通じています。

現在、災害時における国道 10 号線や九州縦貫自動車道路の代替道路としても位置づけられている、主要地方道伊集院、蒲生、溝辺線の蒲生工区の整備が進められています。

蒲生校区のコミュニティ協議会は、平成 27 年 12 月に発足しました。平成 29 年 5 月 1 日付の人口は、蒲生町の人口の約 90%にあたる 5,990 人です。

始良市に、17 校区コミュニティ協議会がありますが、蒲生校区の特徴は、地区公民館等の組織や活動を継続していることです。

これまで慣れ親しんだ地区公民館活動とコミュニティ協議会が連携して、地域の課題解決や地域活性化に努めてまいります。

2. 「蒲生」の名前の由来

蒲生の名が初めて文献に登場したのは、今から 1,200 余年前「日本後紀」に「大隅国桑原郡蒲生駅と薩摩国薩摩郡田尻駅と相距てる遙かに遠し・・・」と、蒲生の名が記されています。

当時、大隅・薩摩両国府を結ぶ幹線上の一拠点であり「蒲生院」とよばれ、地方行政の中心として発達していたようです。

地名の由来は諸説ありますが、その昔この地域一帯の肥沃な土地に蒲草が生い茂っていたために「蒲」を「生む」土地という意味で蒲生と名付けられたと伝わっています。蒲草は畳表の原料として重宝され、蒲生は畳表の産地でした。

3. 蒲生校区内の主要施設

市区町村機関

蒲生ふるさと交流館

始良市役所蒲生総合支所

蒲生学校給食センター

蒲生高齢者福祉センター

蒲生観光交流センター

蒲生ふれあいセンター

始良市シルバー人材センター蒲生支所

蒲生総合体育館

温泉センターくすの湯

蒲生公民館

警察機関

始良警察署 蒲生駐在所

消防機関

始良市消防本部中央消防署 蒲生分遣所

郵便局

蒲生郵便局

米丸簡易郵便局

薄原簡易郵便局

都道府県機関

鹿児島県森林技術総合センター

学校幼保育園等

鹿児島県立蒲生高等学校

始良市立蒲生中学校

〃 蒲生小学校

〃 大楠ちびっこ園

4. 史跡、観光、レクリエーション

(1) 蒲生の大クス・八幡公園



推定樹齢約 1,500 年、根回り 33.57m、目通り幹囲み 24.22m、高さ約 30m で、樹根部にはタタミ八畳分の空洞があります。昭和 63 年に環境庁が実施した巨樹・巨木林調査で日本一と認定されました。

八幡公園地域は、蒲生八幡神社を含む周辺地で蒲生観光交流センターを建設し、大型バスの駐車可能な観光駐車場が整備されました。

(2) 住吉池公園



周囲 3.2km、深さ 30m で、ブラックバス・鯉・ヘラブナ・ブルーギル等が多く生息しています。公園及びバンガローを備えたキャンプ村があります。

(3) 御仮屋門



蒲生地頭屋（江戸時代の役場のことらしい）の正門です。

市指定文化財

(4) 蒲生どん墓



中世豪族の蒲生氏 8 代から 13 代までの当主一族の墓地で 31 基がまとめられています。慶応 3 年（1867 年）の洪水で埋没、昭和 13 年有志により現在地に復元されました。市指定文化財

(5) 武家屋敷通り



屋根付きの門を構え、自然石の石垣をめぐる武家屋敷群です。

(6) 竜ヶ城 梵字仏蹟・城山公園



竜ヶ城（城山）の岩壁に約 120mに渡って刻まれている「竜ヶ城磨崖一千梵字仏蹟（市指定文化財）」があり、梵字の数が 1,700 字にも及び、1ヶ所にまとめられたものとしては、日本最多の磨崖梵字であるともいわれています。城山公園は、天然の要害に囲まれた蒲生氏の本城の跡に、展望台や遊歩道があり、春には桜が咲き誇るなど、四季折々の花が咲き、遠くに霧島連山を望むことができます。

(7) 下久徳の田の神



明和5年(1768年)に造られたもので、自然石に浮彫されメシゲと椀を持ち「奉造田之御神庚申講」と刻まれています。県指定文化財

(8) 掛橋坂



蒲生町北と西浦を結ぶ峠に見つかった石畳。現在の県道川内・加治木線が明治時代に開通する前の旧道で江戸時代には、いむた・祁答院方面と蒲生を結ぶ地方道として利用されていました。市指定文化財

5. 伝統工芸

(1) 蒲生和紙



島津家本家の家老が藩政の改革にあたり、殖産興業をおこしたころに蒲生和紙も始まっています。用途は、書道用、障子紙等

6. 郷土芸能

(1) 太鼓踊り公開



毎年8月21日に蒲生八幡神社に奉納。島津義弘公が「文禄・慶長の役」戦勝記念として踊らせたのが伝わり、現在も川東・北・下久徳の3地区の保存会で伝承されています。

7. 蒲生校区コミュニティ協議会の組織体制

設 立 平成27年12月10日

構成団体 校区13公民館等

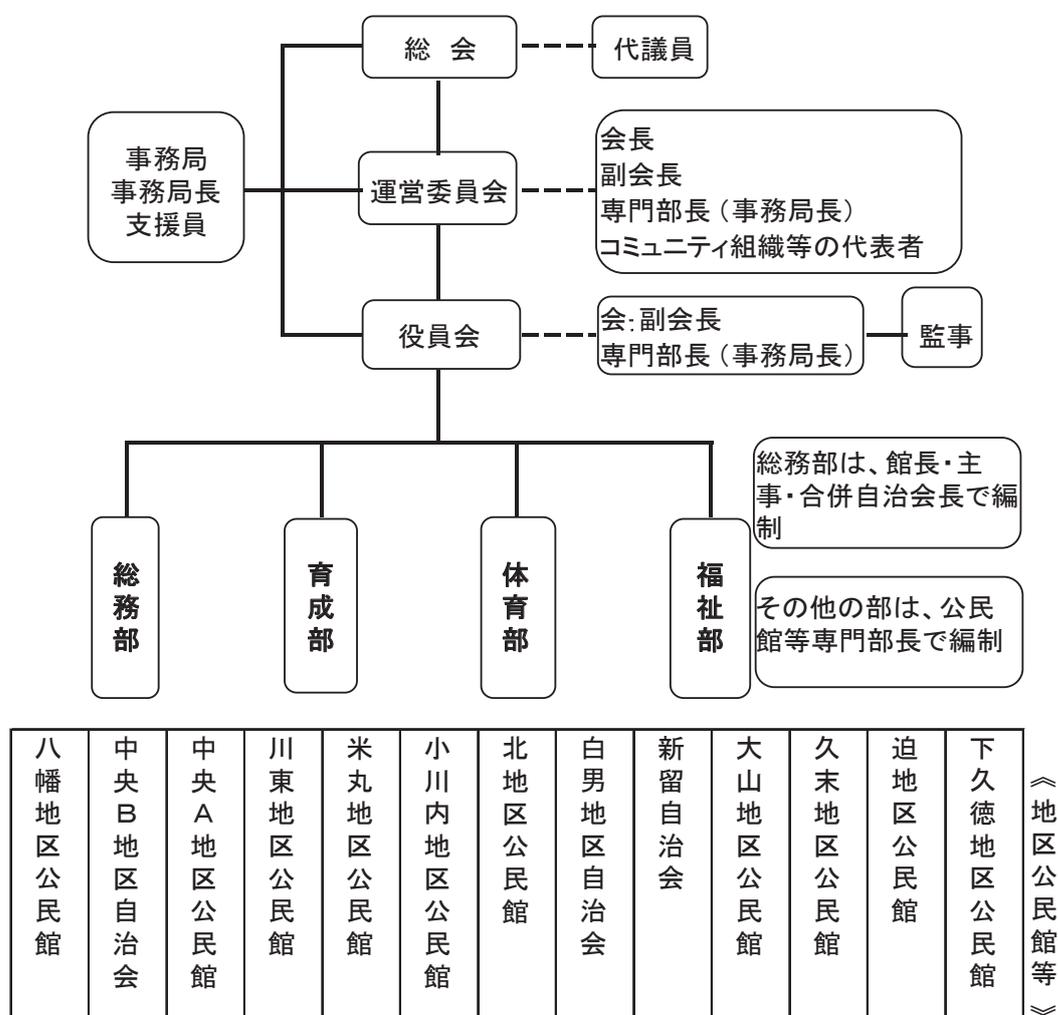
事務局 始良市蒲生町上久徳2399番地

(始良市役所蒲生総合支所内)

蒲生校区コミュニティ協議会は、蒲生小学校校区内の13地区公民館等から代議員や役員を選出して設立しました。

地区公民館等で実施している活動を継続しながら、校区としての体制構築を行い、課題に取り組み、地域が活性化する活動を模索しています。

組織図



II 蒲生校区の現状と課題

1. 蒲生校区の現状

(1) 人口 世帯数について

蒲生町は、過疎地域自立促進特別措置法の対象地域（過疎地域）とみなされています。

長期化する雇用環境の悪化に伴い、就職等による若年層を中心とした人口流出が続き、人口減少が止まらず、若年層の大幅な減少と高齢化の進展が顕著となっています。

平成29年5月1日付けの蒲生校区の状況は、下表のとおりです。人口の多い地区と少ない地区の差が歴然としており、地区によっては、限界集落と呼ばれるような所もあります。また、蒲生校区の65歳以上は、2,267人で高齢化率は、37.8%と始良市全体の29.4%を上回っており、特に、山間地の高齢化率が高くなっています。

地区別人口・世帯数の状況

平成29年5月1日現在

地区名	男	女	計	世帯	高齢化率	15歳未満人口	15～64歳人口	65歳以上
八幡	139	178	317	178	52.7%	31	119	167
中央B	234	265	499	236	41.1%	70	224	205
中央A	273	335	608	282	35.7%	108	283	217
川東	406	469	875	406	34.2%	127	449	299
米丸	226	264	490	235	44.7%	53	218	219
小川内	44	48	92	59	70.7%	2	25	65
北	249	272	521	254	37.2%	51	276	194
白男	111	130	241	119	41.5%	16	125	100
新留	39	46	85	56	47.1%	7	38	40
大山	62	64	126	80	56.3%	8	47	71
久末	74	97	171	88	43.9%	6	90	75
迫	523	540	1,063	464	28.6%	190	569	304
下久徳	437	465	902	398	34.5%	120	471	311
合計	2,817	3,173	5,990	2,855	37.8%	789	2,934	2,267

(2) 校区の産業等

農業は、基幹作物の水稻を中心に畜産・施設園芸等があり有機栽培にも取り組んでいます。

林業は、スギ・ヒノキを中心とする人工林が着実に充実しているが、木材価格の低迷、生産費の高騰、高齢化による労働力不足等で生産活動の停滞が続いています。

商店街は、市街地に立地し、初市・師走市・夏祭りなどのイベントで活性化を図っています。

また、電子部品・金属加工・加工食品等の企業進出があるものの、校区外通勤圏への就職者が多く、より多く雇用の場を確保するため、優良企業の積極的な誘致が望まれます。

(3) 観光

蒲生地区は、県都鹿児島市の近くに位置しているが、自然と歴史的な落ち着きのある癒しの空間としてのイメージがあり「蒲生の大楠」や「武家屋敷通り」など、近隣にない地域の特性が生きた観光として定着して来ています。

今後も、この恵まれた自然条件や文化財資源等を生かし、「観光地蒲生」として独特の観光開発が望まれます。

(4) 防災に対する住民の意識

蒲生校区は、昭和46年(1971年)と平成5年(1993年)に集中豪雨及び台風による災害また、昭和60年(1985年)には、台風13号による蒲生八幡神社大破倒木及び橋流出等多くの損害を受けています。

また、大山地区の一部集落が川内原子力発電所から30km圏内にあり、防災意識は比較的高いと思われます。

(5) 史跡や伝統芸能の保存について

蒲生校区には、多くの史跡・伝統芸能があり、観光資源として大切に保存されています。

しかし、将来少子高齢化により、後継者不足となり、保存、継承ができなくなる恐れがあり対応が必要です。

2 蒲生校区の課題

- 1) 過疎化により、若年層の減少と高齢化率の上昇があり、特に山間地の自治会・公民館活動への影響が出始めています。組織機能が十分発揮されるよう、組織の見直しが必要になっています。
- 2) 蒲生校区の自治会未加入者については、毎年加入を推進し、未加入者の減少に取り組む必要があります。
- 3) コミュニティ協議会の活動について、協議会だよりを不定期に発行していますが、コミュニティ協議会の内容が十分に浸透していないので、今以上の広報活動を行う必要があります。
- 4) 生活環境の改善について、行政への要求は、自治会・公民館等と連携を密にして、行う必要があります。
 - ・市道の見通しの悪い場所・側溝の整備
 - ・道路指示表示（横断歩道・停止線・中央線等）やロードミラーの補修
 - ・空き地・空家の管理
 - ・道路、川、ガケ等の危険箇所の把握と広報活動 等
- 5) 校区としての範囲が広く、育成部・福祉部の校区（13 地区公民館合同）のイベントの実施が難しい状況です。
- 6) 地区対抗のスポーツ大会を実施していますが、高齢者も参加できるスポーツ大会の実施も望まれています。
- 7) 新しいスポーツに触れる機会が無く、普及が進んでいません。新スポーツの普及活動が望まれます。
- 8) 地区公民館等では、高齢者の見守り・生活支援活動が実施され、また、地区サロンの開催は、高齢者の交流の場として喜ばれています。校区としての、健康づくり活動や高齢者の支援体制の確立が望まれます。

Ⅲ 蒲生校区がめざす将来像

1. 蒲生校区がめざす将来像

蒲生校区の将来像を以下に示します。

校区内の「先祖が残した歴史と文化」、「恵まれた自然」を大切にして、子や孫などの次世代へ引き継ぎ、豊かな心を育ていける地域をめざします。

また副題は、子供や高齢者の防犯、防災、交通安全など「安心、安全」に対し地域住民の意識を高めていくことを目的としています。

スローガン (将来像)

歴史と文化の調和、自然の中でこころ豊かに暮らす蒲生校区

「安心・安全」のまちづくり

2. 分野別の基本方針

将来像を達成するために、以下に示す4つの部会ごとに「目指す姿と基本方針」を掲げ実現に向けて行動します。

(1) 総務部

① 目指す姿

こころ豊かに、安心・安全なまちづくり

② 基本方針

地区自治会・地区公民館・コミュニティ協議会との連携を強化し、公民館等組織の見直しや身近な生活環境の課題（環境衛生・防災・防犯・交通・住宅等）解消や、地域活性化に取り組みます。

(2) 育成部

① 目指す姿

家庭と地域で見守る、子どもの成長

② 基本方針

子供にとって、異年齢間交流や体験活動は、将来の豊かな人間性を

育てる重要な経験。地区行事への積極的な参加や世代間及び各公民館の交流等を通じて子供たちの健全な育成を図ります。

(3) 体育部

③ 目指す姿

スポーツによる健康づくりと住民交流

④ 基本方針

地区対抗のスポーツ大会は、運動不足の改善や、大切な校区の交流の場となっています。高齢者も参加できる、スポーツ大会の開催を目指します。

今後は、幅広い年齢ができるスポーツの普及に取り組みます。

(4) 福祉部

⑤ 目指す姿

高齢者のための支援活動の充実

⑥ 基本方針

一人暮らしや高齢者世帯等の方々が、健康で安心できる生活ができるよう、地域の見守りや、交流支援活動の充実を図ります。

IV 主な取り組みと実施時期・役割分担

4つの部会別の基本方針に沿って、今後の取り組みとその時期、役割分担を以下のように整理します。 ※実施時期 ○検討・準備期間 ●実施期間

※役割分担 地域→校区内で取り組むこと

協働→校区と行政が協働で取り組むこと

行政→行政が取り組むこと

《総務部会》

目指す姿 ころ豊かに、安心、安全な地域づくり

今後取り組むこと

施策	実施時期			役割分担		
	短期 1～2年	中期 3～5年	長期 6～10年	地域	協働	行政
地域活性化の取り組み						
公民館（自治会）組織の見直し	○・●	●	●	○		
自治会加入推進活動	●	●	●	○		
広報活動	●	●	●	○		
安心・安全の地域づくり						
生活環境改善対策	○・●	●	●		○	
交通安全・交通運行形態対策	○・●	●	●		○	
防災対策の強化	○・●	●	●		○	
空き地・空家対策	○・●	●	●		○	

《育成部会》

目指す姿 家庭と地域で見守る子どもの成長

今後取り組むこと

施策	実施時期			役割分担		
	短期 1～2年	中期 3～5年	長期 6～10年	地域	協働	行政
新入生見守り活動	●	●	●	○		
公民館交流イベント開催	○	●	●	○		
イベント用品の充実	○・●	●	●	○		
対外活動参加	○・●	●	●	○		

《体育部会》

目指す姿 スポーツによる健康づくりと住民交流

今後取り組むこと

施策	実施時期			役割分担		
	短期 1～2年	中期 3～5年	長期 6～10年	地域	協働	行政
イベントの開催						
スポーツイベントの開催	○・●	●	●	○		
新スポーツの普及						
市大会等への参加	●	●	●		○	
新スポーツの普及	○・●			○		

《福祉部会》

目指す姿 高齢者のための支援活動の充実

今後の取り組むべきこと

施策	実施時期			役割分担		
	短期 1～2年	中期 3～5年	長期 6～10年	地域	共働	行政
健康づくり活動	○・●	●	●		○	
新入生見守り活動	●	●	●	○		
高齢者支援活動						
見守り活動	○・●			○		
地域サロン開催支援	●	●	●	○		

V 計画の推進に向けて

校区振興計画として、4部会による今後の目標を掲げました。短期・中期・長期の目標を定めました。

目標達成のために、13地区の公民館等と連携し、計画を推進してまいります。

校区の皆様にご理解いただくために、『蒲生校区まちづくりプラン』の冊子を全校区民に配布します。

また、この各部会の実行計画を年度ごとに検証し、必要に応じて見直しを行います。

『歴史と文化の調和、自然の中でこころ豊かに暮らす蒲生校区』という将来像に向けて、校区の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

蒲生校区まちづくりプランの作成委員会委員

No	役 職	氏 名	備 考
1	校区コミュニティ協議会 会長	有村 穆尚	
2	〃 副会長兼事務局長（下久徳地区公民館長）	今村 昭男	
3	〃 副会長（迫地区公民館長）	三宅 義和	
4	〃 総務部長（川東地区公民館長）	辻 二郎	
5	〃 育成部長（中央A地区育成部長）	西 由紀子	
6	〃 体育部長（迫地区体育部長）	別府 伸二	
7	〃 福祉部長（下久徳地区福祉部長）	中野千津子	
8	〃 総務部員（八幡地区公民館長）	柊元 栄治	
9	〃（〃 主事）	瀬之口洋文	
10	〃（中央B地区自治会長）	野村 豊久	
11	〃（〃 主事）	田中 了	
12	〃（中央A地区公民館長）	窪田 正浩	
13	〃（川東地区公民館主事）	三月田正則	
14	〃（米丸地区公民館長）	福元 道弘	
15	〃（〃 主事）	川野 國雄	
16	〃（小川内地区公民館長）	益口 孝治	
17	〃（〃 主事）	羽生 悦子	
18	〃（北地区公民館長）	川瀬 孝二	
19	〃（〃 主事）	高山 吉昭	
20	〃（白男地区自治会長）	前畑 一男	
21	〃（〃 主事）	実能田 恵	
22	〃（新留自治会長）	出水 透	
23	〃（大山地区公民館長）	岩元 孝一	
24	〃（久末地区公民館長）	柊元 紳一	
25	〃（〃 主事）	濱平 邦彦	
26	〃（迫地区公民館主事）	高山 和美	
27	〃（下久徳地区公民館主事）	櫻木 俊雄	
28	校区コミュニティ協議会支援員	瀬之口利夫	

平成 30 年 3 月
蒲生校区コミュニティ協議会
(蒲生総合支所敷地内)

〒899-5392

始良市蒲生町上久徳 2399

Tel 0995-73-4307

Fax 0995-73-4310

E メール : kamo-aikomi@po5.synapse.ne.jp